

曾根天満宮

菅原道真（845 ～ 903 年）は学者、詩人、政治家でした。現在では学問の神様として天神様として崇められています。901 年、九州へ向かう菅原の船が曾根の近くに停泊しました。彼はこの機会に天満宮の西にある日笠山に登り、そこで松の種を植え、九州の繁栄を祈りました。その種は成長して大きな松の木となり、有名になりました。

数年後、息子の淳茂が曾根を訪れ、父を祀る神社を建てました。神社の建物は、時代の騒乱や自然災害によって損傷したり破壊されたりしましたが、現在も同じ場所に残り、天満宮として知られています。天神（菅原道真公）を祀る主要な神社の一つです。

現在の本殿は、明治 3 年（1870）に再建されたものですが、天正 18 年（1590）の部材も残されています。現在の拝殿は明和 2 年（1765）に建てられたもので、境内には菅原ゆかりの牛の像が飾られています。彼は牛が好きで、移動手段として牛を選んだと言われています。1798 年に枯れたと考えられている有名な松の木「曾根の松」は、池や庭園とともに観光客を魅了するために保存されています。

何世紀にもわたって、たくさんの詩人がこの神社を訪れ、詩を寄贈してきました。現在では、学業成

就の祈願や秋の例大祭に参加するために人々が訪れています。